

「もったいない」は、「人や物を大切にする」という優しい心、「ありがたい」という感謝の心、「おそれ多い」という謙虚な心という3つの美徳が込められた、日本人に伝統的に引き継がれ



福島県知事
佐藤 栄佐久

「もったいない」の心を生かして

てきた心の琴線に触れる言葉です。

県では、本県の豊かですつくしい環境を将来の世代に引き継いでいくため、この「もったいない」をキーワードに、これまでのライフ

スタイルを見直し、環境への負荷の少ない循環型社会の実現に向けた取り組みを推進しています。

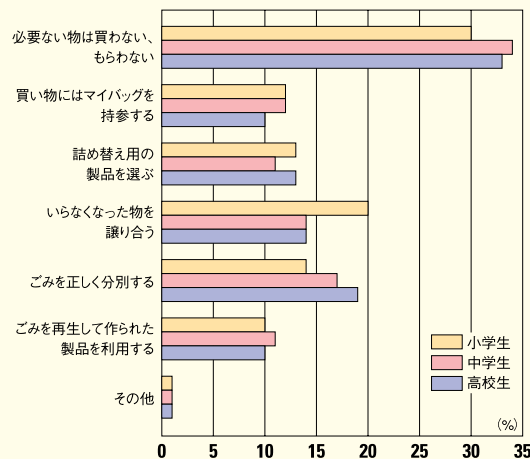
皆さんも「もったいない」の心で、環境にやさしい取り組みを実践してください。

「もったいない」に関するアンケート調査

(小・中・高校生2,453人)

「もったいない」という言葉は約98%が「知っている」と答えています。「ものを大切に、無駄にしない」社会をどうすれば良いかとの問いには、3Rの考え方と合致した回答が多数を占めました。

●あなたは「ものを大切に、無駄にしない」という意味の「もったいない」ということを大切に社会を作るために何をすれば良いと思いますか？(2つまで回答)



坂下小の学校生活に定着している「紙食い箱」。一年生でもきちんと活用しています。



「子どもたちの活動に感心させられます」と語る玉川校長先生。

紙食い箱で古紙のリサイクル 「会津坂下町立坂下小学校」

「紙食い箱」の取り組みは、昭和60年に始まりました。各教室や職員室、廊下などに設置した「紙食い箱」に、不要な紙や使用済みの紙を一時保管します。メモや図工の下敷きなど、紙が必要な時は「紙食い箱」から取り出し再使用します。使えなくなった紙は、最終的に町の資源物収集日に回収され、再生紙となります。坂下小学校では、子どもたちも教職員も普段の学校生活の一部として環境活動を20年以上継続してきました。小さな取り組みを

続けていくことが大切ですね。もったいないと言えば、会津坂下町では、給食センターの栄養士さんが給食で使用した材料について説明してくれ、町のどこで誰さんが作った野菜だとか、こんな風に調理したとか、顔の見える関係で食の大切さを教えてくれます。給食を作った人に感謝し、食べ物を大切にすると、「もったいない」感覚を子どもたちの身近なところで養っていくことが重要だと思っています。



●会津若松市 会津若松市 ボランティア連絡協議会の皆さん

物 を大事にする心が崩れてしまっているようです。一度、崩れるとダメですね。もったいないのキャンペーンは、一定期間だけでなく、一年中やってほしい。長く続けることが大切ですから、県の封筒の下を再利用するアイデアはいいと思います。



●会津若松市 川島諒輔さん 波部光祐さん

県 の取り組みについては聞いたことがないです。みんなにわかるようにテレビでお知らせしてほしいです。昼の番組ではあまり見られないので、夜、CMでやればいいと思います。